

報告事項シ

平成23年度生涯スポーツ功労者及び生涯スポーツ優良団体表彰について

平成23年度生涯スポーツ功労者及び生涯スポーツ優良団体表彰について、別紙のとおり報告します。

平成23年10月24日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

平成23年度生涯スポーツ功労者及び生涯スポーツ優良団体表彰について

平成23年10月24日
スポーツ健康教育課

1 表彰の趣旨

地域又は職域におけるスポーツの健全な普及及び発展に貢献し、もって地域におけるスポーツの振興に顕著な成果をあげたスポーツ関係者及び団体を文部科学大臣が表彰する。

2 表彰式

- (1) 日 時 平成23年10月7日(金)午後2時15分～午後3時
(2) 場 所 中央合同庁舎第7号館3階講堂(東京都千代田区霞ヶ関3-2-2)

3 本県の受賞者(団体)及び功績等

(1) 生涯スポーツ功労者

氏 名	岩本 章嗣(いわもと あきつぐ)
役 職	鳥取県スケート連盟会長 NPO法人アイススポーツ鳥取理事長
主要経歴	・平成12年4月～平成16年3月 鳥取県スケート連盟 副会長 ・平成17年4月～現在 鳥取県スケート連盟 会長 ・平成20年4月～現在 NPO法人アイススポーツ鳥取理事長
功 績	永年にわたり、地域にスケート競技を根付かせるとともに、地域の子もたちにスケートの指導を続け、地域スポーツの推進と振興に寄与した。 県スケート連盟だけでなく、日本スケート連盟、県協会の役員として組織の充実・発展に大きく寄与した。

氏 名	岡田 行雄(おかだ ゆきお)
役 職	鳥取県自転車競技連盟理事長
主要経歴	・昭和63年4月～現在 県自転車競技連盟理事長 ・平成6年4月～平成13年3月 (財)日本(アマチュア)自転車競技連盟理事 ・平成13年4月～平成22年3月 (財)日本自転車競技連盟常務理事
功 績	競技力の向上に取り組み五輪大会日本代表を含めた多くの選手を輩出するなど本県自転車競技の基礎を築いた。 鳥取県自転車競技連盟の理事長を永年努め、自転車競技人口の拡大と組織発展のために貢献し、本県自転車競技の普及・発展に尽力した。

氏 名	池口 敏明(いけぐち としあき)
役 職	鳥取県ボート協会監事
主要経歴	・昭和55年4月～昭和61年3月 県ボート協会理事 ・昭和61年4月～昭和64年1月 県ボート協会強化部長 ・平成元年2月～平成19年3月 県ボート協会事務局長 ・平成19年4月～現在 県ボート協会監事
功 績	ボート競技の普及という観点で、ジュニアクラブの設立や、ジュニア期からの一貫した指導体制の確立、指導者養成等に積極的に取り組み、ボート競技を通して地域スポーツの振興に寄与した。

氏 名	椿 知 夫 (つばき ともお)
役 職	鳥取県スポーツ少年団指導者協議会会長 鳥取県スポーツ少年団副本部長
主要経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和60年4月～平成5年12月 福米東スポーツ少年団野球部指導者 ・平成5年4月～現在 創スポーツ少年団指導者 ・平成14年4月～現在 あすなるスポーツクラブ事務局 ・平成17年4月～ 鳥取県スポーツ少年団指導者協議会会長 鳥取県スポーツ少年団副本部長
功 績	<p>長きにわたりスポーツ少年団の指導者の中心となって活動され、スポーツ少年団発展に力を注がれ、平成17年度からは鳥取県スポーツ少年団指導者協議会会長及び鳥取県スポーツ少年団本部副本部長を務める。</p> <p>また、総合型地域スポーツクラブ・あすなるスポーツクラブの発足にも携わり、幅広いに年齢層が参加できる活動の企画・運営に取り組んでいる。</p> <p>役員でありながら、自らが率先して動き、模範を示すことで、子供だけでなく、それを支えていく大人の育成にも力を注いでいる。日頃の熱意のある指導により、信頼もあつくよせられている。</p>

氏 名	林 展 正 (はやし のぶまさ)
役 職	鳥取県東部スポーツ少年団指導者協議会代議員
主要経歴	平成5年4月～ 現在 東部地区スポーツ少年団指導者協議会代議員
功 績	<p>長年にわたり、郡家西スポーツ少年団軟式野球の監督として団員の技術向上のみならず、公共施設等の清掃、美化活動といった地域貢献を行うことで道徳観や礼儀等、こころの醸成を図り、スポーツを通じた青少年の健全育成に尽力している。</p> <p>また、指導者として長年、鳥取県東部スポーツ少年団指導者協議会の代議員を務め、指導力の向上や指導者育成に力を注いでいる。</p>

(2) 生涯スポーツ優良団体
ア スポーツクラブ

団体名	泊クラブ（湯梨浜町）
代表	会長 酒井 幸雄
功績	<p>子どもから高齢者まで、いつでも、誰でも気軽に参加できる教室・イベントを開催しており、特に、これまでスポーツに対して苦手意識を持っていた人にも気軽にクラブに入ってもらうため、文化活動（和太鼓教室、手芸教室、茶道教室など）を多く取り入れるなど、参加者を増やす工夫を凝らしている。現在では、子ども和太鼓が地域のイベントに出演するなど、地域の活性化にもつなげた。</p> <p>地域施設を有効利用し、スポーツ活動だけでなく文化活動も取り入れ、幅広い世代に参加してもらうことで世代間交流を深め、人と人とのつながりを大切にした活動は年々充実してきている。</p>

団体名	鳥取県自転車競技連盟（倉吉市）
代表	会長 上村忠史
功績	<p>県内に部活動として実施している高等学校が4校しかない中で、毎年、全国大会や国民体育大会で優勝または入賞する選手を輩出し、特に第61回兵庫国体（平成18年）では、チームスプリントで優勝、第62回秋田国体（平成19年）では男子スプリントで優勝するなどすばらしい成績を残している。また、森本朱美選手（シドニーオリンピック）、和田見里美選手（北京オリンピック）と2名のオリンピック選手を輩出するなどその活躍はすばらしいものがある。</p> <p>平成18年度に全日本選手権を鳥取県に誘致するなど本県の自転車競技の普及・振興に大きく貢献した。</p> <p>学校に部活動がない選手も、倉吉自転車競技場を拠点として、一緒に練習させ優秀な成績を収めるなど、競技団体が一丸となり選手強化に取り組む姿勢は他の競技団体の模範となるなど、その功績は顕著であり、高く評価できる。</p> <p>平成18年より自転車競技の底辺拡大を目的にサイクルフェスティバルを始め、現在年2回（春・秋）に行い、幼児を含めて自転車競技の普及に取り組んでいる。</p>

イ スポーツクラブ以外

団体名	倉吉市スポーツ少年団（倉吉市）
代表	本部長 福井伸一郎
功績	<p>単位団に2名以上の有資格者を配置することを基本に、安全な活動を目指している。また、主催する研修や講習に指導者は積極的に参加するように心がけ、自己研鑽に努めている。</p> <p>各種大会やスポーツ活動へ積極的に参加し、技能の向上を図っている。</p> <p>また、スポーツ少年団の理念に基づき、地域活動などを通してボランティア精神を養うなど、青少年の健全育成に尽力している。</p> <p>総合型地域スポーツクラブとも連携をとり、活動の幅をひろげ、よりよい環境づくりを目指している。</p>